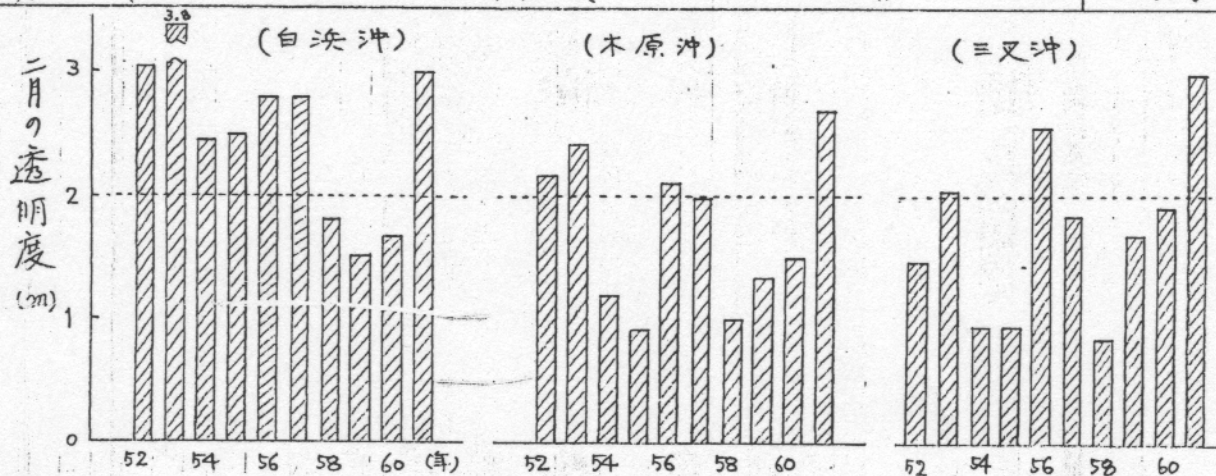


内水試
かわら版
74号

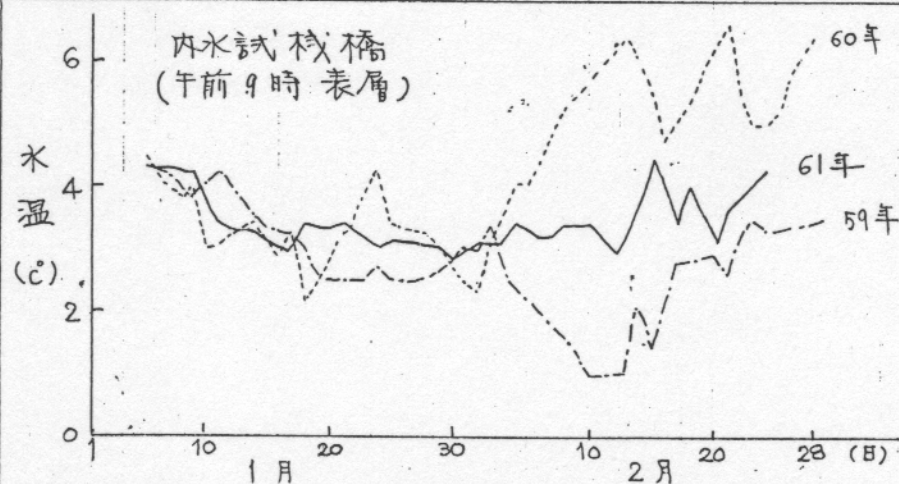
澄んでいろ水

霞ヶ浦、北浦の水が、二月としては大変透き通っています。

下の図は、最近十年間の透明度の変化を示したものです。透明度とは直径二十五cmの白色の円板を水中に降ろし、見えなくなる水深で表わします。ですから、水が澄んでいると深くまで円板が見えます。すなわち、透明度は大きな値になります。逆に、アオコがでてくる夏には、円板は直ぐ見えなくなるとい



二〇cmとか三〇cmと低くなり、今年、霞ヶ浦湖心(三又沖)の透明度は三mです。かう、水深三mの所にある白色の円板が、ボンヤリと見えるぐらいの水が透き通っている、ということ。このように、特に霞ヶ浦で透明度が高いのは珍しいことです。厳冬の五十九年三月に、霞ヶ浦の湖心で二・七mの透明度を観測し、近年にない高い値と「かわら版」で書きましたが、これよりも高くなっています。霞ヶ浦の冬の透明度は、冬の水温が低い程、高くなる傾向がみられます。



左図は、一、二月の水温変化を示したものです。今年は一、二月に入ってから、五十九年程ではありませんが、昨年より幾分水温は低く推移しているようです。

内水試図